

東アジア教育交流における双方向的連携システムの構築に関する研究

A Study of Constructing An Interactively Cooperative Communication System of Educational Exchanges in East Asia

松村 茂樹, 松浦 康彦, 松田 春香

文学部コミュニケーション文化学科

キーワード：東アジア, 国際交流, 教育交流, 双方向, 遠隔授業

1. 研究の目的

文部科学省の「国公立大学を通じた大学改革の支援」プログラムの1つに、「大学の国際化と国家戦略としての留学生政策の推進」があり、その内の「大学教育の国際化加速プログラム」として「国際共同・連携支援（交流プログラム開発型）」が設けられている。

本研究は、この趣旨に則り、今後、より重要性を増して行く中国、韓国をはじめとする東アジア地域との教育交流における双方向的連携システムの構築を目的とする。

周知の通り、日本の貿易相手国の第1位は中国（輸出入）、第3位は韓国（輸出）であり、日本の企業等においても、これらの国々の言語を駆使し、事情を理解する人材が求められている。よって、教育現場においても、その人材育成をより効果的に行えるシステム構築が急務となっている。

教育交流においては、学生が実際に現地に赴く留学や訪問交流が最も効果的であり、本学においても、各学部の国際交流委員会等で、検討・推進がなされている。本研究は、これらと連動しながら、留学や訪問交流の機会を得ない学生たちにも、国際交流の機会を提供する方法を研究したい。その1つとして、すでにコミュニケーション文化学科が導入しているテレビ会議システムおよびWEB通信を使った遠隔授業の試みは、本学にないがらにして、諸外国の大学とつながることが可能であり、教育効果は大きいと思われる。このシステムを整備できれば、国際化に向けたカリキュラム改善が可能となる。

現在、国際化に対応した人材が求められているにもかかわらず、未だその要請に十分応じられていない状況となっており、その要請に応じる教育システムの構築は、大いなる社会貢献となるはずである。

2. 活動実施報告

1) テレビ会議システム操作マニュアル作成

遠隔授業を行うためのテレビ会議システム（現在、コミュニケーション文化学科会議室に設置、国際交流センター開設後は、同センターに移管される）の操作を、全く初めての人でもできるように、マニュアルを作成した。

その作成を東和エンジニアリングに依頼し、数回にわたって会議を行ってマニュアルの内容を検討した結果、きわめてわかりやすいマニュアルが完成した。

2) WEB通信による通信実験

留学生ガイダンスを兼ねたWEB通信による通信実験を行った。

3) 公開講座開催

平成24年1月19日、研究所セミナールームにおいて、大連外国語学院漢学院院長・潘曉春教授を講師に招き、公開講座「日中双方向教育交流の可能性」を開催した。

3. 研究目標の達成状況

本研究は、研究期間内（平成23～25年度）に、遠隔授業システムをはじめとする双方向的連携システム構築の方法と方向を明らかにする予定である。

本年度は、その第1年目にあたり、基礎的準備を確実に進めたと考えよう。

4. まとめと今後の課題

申請書に記した本研究の特色は、以下の2点である。

1、現在、重要性を指摘されながら、整備が遅れている東アジアの大学との教育交流推進をはかっている点。

2、留学・訪問交流の機会がない学生にも国際

交流の機会を提供できる点。

本研究が、学内プロジェクトである以上、本学の学生への還元を考慮せねばならない。

今年度の就職状況を見ても、日本の企業等が大学に求める人材の性質が急激に変化していることがわかる。つまり、これまで「就職の大妻」が実績をあげてきた一般職の募集そのものが大幅に減少し、派遣・契約に置き換わっており、基幹職・総合職に食い込んでいくしかないのであるが、これらには国際力が必要とされる。ところが、日本の大学全体においても、これを有する人材が少ないため、外国人学生を大量採用する結果となっているのが現状である。

よって、日本の大学においては、国際力を身につけさせることが今や基本となっており、そのシステム構築をめざす本研究の波及効果は大きいと思われる。

今後は、本研究の成果を、本学学生に還元する具体的方法も検討せねばならないであろう。

5. 研究成果

1) テレビ会議システム操作マニュアル作成

遠隔授業を行うために用いることを想定しているテレビ会議システムの操作は、複雑なものではないが、初めての人がすぐに操作できる状態にはない。よって、今回、操作マニュアルを作成し、機器に備え付けておくことになった。

これにより、今後は、このシステムの操作が誰でも簡単に行えるようになった。

2) WEB 通信による通信実験

上記テレビ会議システムは、双方に機器の設置が必要であり、機器が備わっていない相手とは、この WEB 通信による通信を行うことになる。

今回、松浦康彦教授の主導で、文学部海外留学制度により、北京師範大学等に留学する学生を対象に、すでに留学を終えて帰国した学生に来てもらい、交流の機会を設け、併せて、WEB 通信による通信実験を行った。

北京師範よりの帰国学生が、留学時の友人（中国人学生）と WEB 通信による交信を行い、テレビ会議システムを補完するシステムとしての可能性を感じさせた。

3) 公開講座開催

平成 24 年 1 月 19 日、研究所セミナールームにおいて、大連外国語学院漢学院院长・潘曉春教授

を講師に招き、公開講座「日中双方向教育交流の可能性」を開催した。

大連外国語学院は、中国有数の外国語大学で、文学部と海外留学協定を締結している。漢学院は、留学生に中国語・中国文化の教育を行う専門学部で、その院長である潘教授の講演は、今後の本学の国際交流にとって、きわめて有意義であった。

本学は、今後、国際交流センターを設置し、本格的に国際交流を行い、留学生受け入れも始められることになっている。そんな中、中国の有名大学である大連外語の潘院長が、本学との交流拡大に前向きな姿勢を示してくれたことは、大きな成果であったと言えよう。

また、潘院長は、遠隔授業の推進についても協力を申し出てくれ、今後、引き続いて共同実験を行って行くことになったこともまた大きな成果であった。

なお、当日は、大澤清二所長のご臨席、ならびに研究所各位の多大なご協力をいただいた。記してお礼申し上げます。

また、中国国費留学経験のあるコミュニケーション文化学科 4 年の津久井麻由さん、宗形美也子さんが通訳を担当し、留学の成果を発揮してくれたことも特記しておきたい。



